



地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業

# 沖縄・奄美エリア

---

## マスタープラン

2024年2月  
沖縄・奄美 共同検討委員会



# INDEX

1. マスタープランの意義	2
2. マスタープランの策定主体	3
3. 将来像と成果目標	4
4. デスティネーションブランディング	7
5. 高付加価値旅行者の誘致に向けた課題と取組の方向性	17
6. 次年度以降の地域経営主体について	28
7. ロードマップ	29

## ブランドコンセプト

自分を取り戻す、  
自分に還る島。

日本と台湾の間に位置する沖縄・奄美の島々には  
すべての生命の調和・再生を表す固有の精神性や生き方が根付いています。  
この島々での日々はあなたの毎日のストレスを癒し、  
失われたレジリエンスを引き出してくれることでしょう。  
自分を取り戻し、自分に還ることができる唯一無二のデスティネーション、  
それが沖縄・奄美です。



# 1. マスタープランの意義

沖縄・奄美の経済社会や歴史的背景と文化・自然資源の世界的価値、沖縄・奄美の連携の意義、重要性に触れながら、これからの観光の役割と意義を述べる。

観光は、（観光立国推進基本法前文にあるとおり）国際相互理解の増進と恒久平和の実現に寄与し、潤いのある豊かな生活価値の創造のほか、雇用の創出、地域経済の活性化など地域経済のあらゆる領域においてその発展に寄与することで、地域生活の安定向上に貢献するためのものである。

特に高付加価値インバウンド旅行者（以下「高付加価値旅行者」）は、単に旅行消費額が大きいのみならず、一般的に知的好奇心や探求心が強く、旅行による様々な体験を通じて地域の伝統・文化、自然等に触れることで、自身の知識を深め、インスピレーションを得ることを重視する傾向にある。そのため、高付加価値旅行者の誘致には、地域の自然・文化・産業等の維持・発展への貢献、提供サービスの価値向上による雇用の確保・所得の増加・域内経済循環の向上等の効果が期待される。また、これと連動して、地域経済のあらゆる側面にその便益がもたらされ観光が長年の経済社会的課題の解決の一助となるよう、産業構造上の課題解決に資する官民の事業を一体的に設計し、その実現を進めるべきと考える。

沖縄と奄美群島は、世界の中での地政学的ポジション、地理・自然・歴史・文化などのつながりに加え、2021年7月に世界自然遺産に登録された生物・地域社会の多様性などの観点から、深い関連を有する。

これらを踏まえれば、両地域の交流と連携を官民で促進し、高い経済的付加価値を伴って、地域に永く引き継がれた文化・環境・社会の価値を生みだし、地域と世界との間で人と経済、価値が循環し続ける、心豊かな関係性と持続可能な共生・循環型の地域経済社会を再構築することは、沖縄県及び鹿児島県の両県のみならず、世界の中での日本の価値をけん引する上でも、重要な役割を担うと思われる。

よって、沖縄県及び鹿児島県奄美群島により構成される本エリアでは、高付加価値旅行者の獲得により、住民・観光客・観光業従事者が、自然・歴史・文化を尊重し、それぞれの満足度を高めるとともに、環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を図り、地域経済を活性化させることを目指し、観光地域づくりの指針となるマスタープランを策定するものとする。

今後の本エリアによる観光地域づくりは、観光庁・両県・エリア内市町村の協力のもと、本マスタープランに基づき行うこととし、沖縄及び奄美群島の官民連携協議会がエリア内のソフト・ハード両面におけるクオリティコントロールを担う。

なお、本マスタープランは、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」「第6次沖縄県観光振興基本計画」及び「かごしま未来創造ビジョン」「第三期鹿児島県観光振興基本方針」「奄美群島成長戦略ビジョン2033」の取組を加速させるものであり、取組の進捗等に応じて随時見直し・充実を図るものとする。

## 2. マスタープランの策定主体

沖縄県、沖縄振興開発金融公庫、内閣府沖縄総合事務局、鹿児島県、国土交通省九州運輸局により構成する「検討委員会」を設置し、双方の合意のもと策定する。

なお次年度は沖縄、奄美それぞれ官民連携協議会を設置、相互連携しながら事業推進を行う。（詳細P.28）

地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業

### 沖縄・奄美 共同検討委員会

- ・ 沖縄県
- ・ 沖縄振興開発金融公庫
- ・ 内閣府沖縄総合事務局
- ・ 鹿児島県
- ・ 九州運輸局

※今後必要に応じて、民間事業者等、地域関係者参加予定

### 3. 将来像と成果目標

#### (1) 地域全体の成果指標

##### 沖縄

- ・ 県民の幸せ感 **90%**
- ・ 観光事業者の満足度 **80%**
- ・ 観光客の満足度 **80%**

##### 奄美

- ・ 住民の意識  
観光に対する住民意識調査で、観光の発展に伴い生活が「良くなった」と回答した割合
- ・ 観光従事者の満足度  
観光従事者満足度調査で、仕事全般的な満足度が「10段階評価のうち上位3段階」を選択した割合
- ・ 観光客の満足度  
奄美群島観光振興基礎調査で、旅行全体の満足度が「大変満足」と回答した割合

※各指標における具体的な目標数値については、次年度以降の事業において設定する。

#### (2) 観光産業の成果指標

- ・ 観光収入 **1.2** 兆円

上記目標の早期達成を目指す

- ・ 観光客一人当たり消費額

令和4年 奄美群島 68,975円

令和15年目標値 奄美群島 **100,000円**

※上記すべて沖縄県第6次観光振興基本計画 令和13年度目標

## 3. 将来像と成果目標

### (3) 地域全体の目指すべき姿

#### 沖縄

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」（沖縄振興計画令和4年度～令和13年度）では、**安全・安心で幸福が実感できる島**、世界から選ばれる誇りある持続可能な観光経済と地域社会の実現を目指し、観光の量から質への転換、経済・社会・環境の好循環等を図ることとしている。

#### 1. 平和で生き生きと暮らせる

「誰一人取り残すことのない優しい社会」の形成

#### 2. 世界とつながり時代を切り拓く

「強くしなやかな自立型経済」の構築

#### 3. 人々を惹きつけソフトパワーを具現化する

「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

また「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる5つの将来像の実現と固有課題の解決を図るため、以下の基本施策を推進している。

1. 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島
2. 心豊かで、安全・安心に暮らせる島
3. 希望と活力にあふれる豊かな島
4. 世界に開かれた交流と共生の島
5. 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

#### 奄美

「かごしま未来創造ビジョン」では、鹿児島を目指す姿を「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」とし、以下の3つに取り組み、これらの好循環を生み出すことで、目指す姿を実現することとしている。

#### 1. 未来を拓く人づくり

#### 2. 暮らしやすい社会づくり

#### 3. 活力ある産業づくり

また、目指す姿の実現のために整理した15の施策展開の基本方向の中で、多様で魅力ある奄美・離島の振興を掲げ、以下3つの項目に沿った施策を展開している。

#### 1. 島々の魅力を生かした奄美・離島の振興

#### 2. 世界自然遺産の保全と持続可能な観光の推進

#### 3. 離島の交通ネットワークの形成

また「奄美群島成長戦略ビジョン2033」では、3つの柱（つなぐ宝、稼ぐ力、支える基盤）を基軸として、自然と文化を守り受け継ぐとともに、仕事の創出に重点を置いた産業振興を目指すことを基本理念とし、目指す将来像として、以下の3つを掲げている。

#### 1. 若者がチャレンジし、夢を実現する島

#### 2. 宝を守り、受け継ぎ、世界の人々と共有する島

#### 3. 全ての「島ちゅ」が主人公として活躍する島



## 3. 将来像と成果目標

### (4) 観光産業の目指すべき姿

#### 沖縄

沖縄県では、「第6次沖縄県観光振興基本計画」において、社会、経済、環境の三側面において調和が取れた沖縄観光の実現のため「持続可能な観光地域づくりの追求」に取り組んでいる。

県民、観光客、観光事業者が、自然、歴史、文化を尊重しそれぞれの満足度を高めるとともに環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を目指すことで沖縄経済を最適に活性化させるため、社会、経済、環境の3つの視点から目標値を定め、以下の**基本施策**を推進している。

1. 安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント
2. 多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進
3. 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進
4. 基盤となる旅行環境の整備
5. 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応
6. 人材育成と人材確保の推進

#### 奄美

鹿児島県では、「第三期鹿児島県観光振興基本方針」において、「来て、見て、感動、世界を魅了する観光王国 “KAGOSHIMA”づくり」を基本目標として掲げている。

具体的には、奄美群島地域の特性を踏まえ、世界自然遺産としての価値を有する貴重な動植物や海洋レクリエーション、島唄をはじめとする特色ある多様で豊かな自然と個性的な文化を生かした体験・滞在型観光等を推進し、沖縄県等との連携による世界自然遺産登録に向けた取組の中で、自然遊歩道等の整備など、人と自然環境が共生する癒やしあふれる観光地づくりを推進することとしている。

奄美群島広域事務組合と（一社）奄美群島観光物産協会（ぐーんと奄美）が連携して群島全体で取り組むことで効率化や相乗効果を図ることのできる**施策**を「群島全体での取組」として下記6つの方向性を策定。

1. 奄美群島の地域ブランディングの強化
2. 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上
3. 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成
4. 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用
5. 奄美群島内外の移動の利便性向上
6. 隣接地域との連携の強化

## 4. デスティネーションブランディング

### (1) 滞在価値（コアバリュー素案）

自然（島の海、川、森、生き物）、歴史（島の伝統、芸能、歴史文化）、文化（島の人、催事、食）など八重山諸島から奄美群島まで多様性を有し、日本の原点、本質的価値を現すものとして美しいグラデーションを魅せる。さらに「命や精神の再生～自分を取り戻す、自分に還る旅」を通じ、地域に永く引き継がれた固有の精神性、すべての生命の調和・再生を現す生き方や環境に触れ、生命や身体が持つ力を引き出す。

#### 特徴① 世界有数のブルーゾーン・命と精神を再生する、究極のガストロノミー・ウェルネス。

サルディーニャ島バルバギア地方と並ぶ、世界的長寿地域（70歳以上の女性長寿の人口が世界で一番多い）。生きがいと神の概念を強く抱き相互扶助の習慣が残る、平素の生活行為を通じ1日の運動量が多い、抗酸化作用や炎症を抑える効果のある薬草や地域固有の野菜等を自ら育てる、食事は野菜、大豆が多いなどが特徴。

奄美は100歳以上のセンテナリアン（百寿者）が多く暮らす「長寿の島々」として知られ、日本の歴代最高齢者に多くの方が名を連ね、センテナリアンの割合はいま、人口比で全国平均の2.6倍と言われる。それぞれの島や地域に根ざした島唄に島の踊り、戦後復興のなかで広がった黒糖焼酎、土地や海の産物を生かした多彩な発酵食がその理由と考えられる。

#### 特徴② 国際交易・交流や自然に育まれた、高い精神性（宗教観、死生観）。 命の再生・循環の中にある、生き方と風景。

古くから豊かな海と山に囲まれ、海洋交易に恵まれた各集落には、海と山、全ての生命を一体として捉え、一つの空間から自然の恵みを受け生かされているという空間設計が見られる。集落の邪気を払い山の神に豊作・豊漁を祈願するシヌグや、海の神を祭る（ウンジャミ・ウングミ）などの祭祀は、その象徴であり、集落の伝統として受け継がれている。これらの中で残された御嶽や聖域、城群等の遺構、琉球古民家の集落風景、さらに、それら理念を現代に現したアート、民芸、伝統工芸、無形文化、空手等は、世界的に高い評価を受けている。

奄美では、その地理的・歴史的経緯において国際交易や琉球・大和などの影響を受け、島唄、八月踊り、豊年祭などの琉球と大和の融合した奄美独自の文化・芸能、信仰、自然観などが生まれた。人々の暮らしは周辺の自然と密接に関わっており、豊穡をもたらすといわれている海の彼方の理想郷（ネリヤカナヤ）、ウナリ神信仰、豊穡と安寧を願って行われるノ口の神祭りなどは、海と山の恩恵を受けて育まれたものである。



## 4. デスティネーションブランディング

### 特徴③

**暮らしと共にある森と海。世界的生物多様性のスポットの中でも、多くの固有種や絶滅危惧種が生息。**

大陸からの分断・結合を繰り返した地史等を背景にし、多くの固有種・絶滅危惧種を含む豊かな生物多様性を持つ（日本全体の0.5%にも満たない面積（世界自然遺産登録された奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島）に、日本全体の鳥類では約半分、在来のカエルのうち約1/4の種を確認）。

自然の保全、環境と経済の好循環、持続可能な利用に貢献するアドベンチャーツーリズムは、それらを育んだ精神性や生き方を併せて学ぶ「スピリチュアルツーリズム（SBNR）」の要素と相まって、固有の世界観と滞在価値を提供。

### (2) コアゾーン

奄美大島<sup>※</sup>、徳之島、やんばる、沖縄本島南部、宮古、八重山などを念頭に、今後、協議会及び地域関係者と協議。  
沖縄・奄美をリードするコアゾーンの形成を進める。

※奄美群島については、初年度は世界自然遺産に登録された奄美大島、徳之島を中心に取り組み、次年度以降、喜界島、沖永良部島、与論島へ取り組みの拡大を図る。

## 4. デスティネーションブランディング

### (3) ウリ (戦略素材)

#### ① 精神性

##### ア. 御嶽や聖域

琉球王国に献上された水の採取である「お水取り」が行われていた「安須森（アスムイ）」御嶽（琉球開闢七御嶽の一つ）と周辺の拝所群、大石林山、沖縄最初の王統である舜天王統の第三代目国王「義本王」の墓など（国頭村）



琉球王朝の宗教的儀礼の場「斎場（セイファ）」御嶽（南城市）

##### イ. 琉球王国のグスク及び関連遺産群 (世界文化遺産)

14世紀の三大勢力が争ったグスク時代において、北部を司る北山の王が、拠点とした今帰仁城跡（今帰仁村）など。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。

## 4. デスティネーションブランディング

### ウ. 各区固有の伝統祭祀

#### シヌグ (国指定重要無形文化財)

集落の邪気を払い山の神に豊作・豊漁を祈願する (国頭村、今帰仁村など)



#### サンガツサンチ

奄美大島では、旧暦3月3日に行われるウナグヌセック (女の節句) で、ハマオレ (浜下れ) などが行われる。

春先の大潮にあたるためイショアスビ (磯遊び) の色合いが濃く、老若男女弁当を持ち、節句遊びと称して終日海岸で遊んだり、貝取り等をして過ごす。この日に海に出て遊ばないとフクロウになるとか、災いが起こるとか、言い伝えが残されている。前年に生まれた女の子を海水につける風習もある。



奄美大島開闢神話の聖地アマンデー (大刈山)、湯湾岳、住民に神聖視される立神など神秘的な霊能力で神の言葉を代弁する女性霊媒師・シャーマンであるユタや琉球王府によって任命された集落の女性祭司ノロ、ネリヤカナヤ (沖縄ではニライカナイ) 伝説など

※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。



## 4. デスティネーションブランディング

### エ. 沖縄空手

フランスやスペイン、アメリカをはじめ、世界に渡り、今や世界中で1億人以上の熱烈愛好家がいる「空手」発祥の地、沖縄。

平和の武、守礼の心を現すものとされ、技の修練と心身の鍛錬によって得られた「武力」と人格者としての崇高な精神を体得した空手家だけが「武士」と言われる。心身の鍛錬を通し、護身の技と高邁な精神性を培う。型・マキワラなどの鍛錬具・相對しての技の修練と鍛錬は、骨をも突き砕くティヂクンと矛先のような鋭い蹴り、何ごとにも動じない不動心、襲い来る敵の動きを封じる眼力を養成する。

世界沖縄を訪れる富裕層観光客からも、その精神性や美しい生き方を学ぶウェルネスアクティビティとして、高い人気を有する。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。

## 4. デスティネーションブランディング

### ② アドベンチャーツーリズム

自然の保全、循環、持続可能な利用に共存し貢献するアドベンチャーツーリズム。希少野生生物保護の夜間パトロールを兼ね、多くの希少野生生物、固有種の活動が活発になる夜の原生林や世界的生物多様性ホットスポットに触れるガイドツアーなども人気。さらに、これらを通じ、住まう人との深い交流、人生価値の共有が生まれている。

奄美大島でも、金作原国有林のウォーキング、マングローブ原生林のカヤック、アマミノクロウサギなど、地域固有の希少野生生物を観察するツアーが人気である。過度な観光客流入を避けるため利用制限を行うエリアも設けるなどサステナビリティを重視した取り組みも進んでいる。

まとまった規模と一定の生物多様性を有するサンゴ礁として北限に位置する奄美では、ウミガメ類の産卵地やアジサシ類、ミズナギドリ類といった海鳥の集団繁殖地が存在し、ホエールウォッチング、シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、シーカヤック、SUPなどが楽しめる。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。



## 4. デスティネーションブランディング

### ③ 民藝・アート

本場奄美大島紬、芭蕉布、宮古上布、琉球紅型、久米島紬、琉球藍、漆器、陶芸など

自然や社会との共生、命の循環・再生を現すものとして、国際交易・文化交流の中で、織物、染物、陶芸など固有の民藝文化が発展した。高級なものは世界的・美術的価値をもつものとして取引されている。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。



## 4. デスティネーションブランディング

### ④ 無形文化

#### ア. 琉球舞踊

歌舞伎、上方舞、京舞と並び、国の重要無形文化財に指定されている。宮廷舞踊の「古典舞踊」、王朝崩壊後の「雑踊」、戦後の「政策舞踊」の三つに大別される。源流は古い祭祀等にあるとされており、手をこねる動きの「コネリ」、体のなよやかな動きの「ナヨリ」などはその現れとされている。

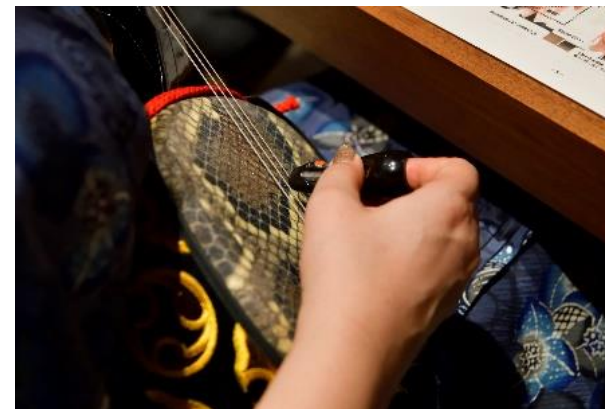


#### イ. 組踊

各区には、歴史上の言い伝えなどを基にした組踊が、保存・伝承されている。

#### ウ. 三線、琉球古典音楽

14世紀末、中国福建の閩江(ビンコウ)下流の住民である閩人三十六姓によって持ち込まれた三弦が三線の原型と言われており、琉球古典音楽を育てた（その後、琉球から大和(堺)に伝えられ、三味線として全国に普及）。名工の製作する三線(歴史的名器)は、ヴァイオリンのストラティバリウスのような世界的評価を受けている。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。

## 4. デスティネーションブランディング

### エ. 島唄

島唄という言葉は奄美で生まれ、沖縄にも伝わったという説が有力。島唄の「島」は、島嶼に限らず、奄美では「自分達の住む集落(=シマ)」をも指す。沖縄民謡は白い弦に水牛の爪を使うが、一方の島唄は黄色い弦に竹バチを使うのが違いであり、最も大きな違いは唄い方であり、島唄はファルセットのような裏声を使う点に特徴がある。



### オ. 八月踊り

奄美大島の各地で旧暦の8月を中心に行われる五穀豊穡を願って行われる行事。

集落住民が輪になり、男女に分かれて歌を掛け合いながらチヂンと呼ばれる太鼓にあわせて踊る。人々が稲魂（イナダマ）を招き、それを持って各戸を訪問する古い風習の面影が見られる、歌、踊り、太鼓が三位一体となった芸能。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。

## 4. デスティネーションブランディング

### ⑤ 食文化・ガストロノミー

#### ア. 食文化

長い歴史や諸外国との交流の中で人々の生活に根付いて育まれてきた沖縄の食文化については、琉球料理や泡盛が日本遺産ストーリーの一部に認定されるなど、観光資源としての活用が期待されている。

奄美では、奄美黒糖焼酎、奄美独特の発酵文化で醸造され多用される味噌、保存食・たんぱく源としての塩豚などの食材や、薩摩藩の役人へ貴重な鶏を使ったもてなしが発祥ともいわれる鶏飯、お米とサツマイモから作られる栄養満点の濃厚な飲料ミキ等の奄美伝統の食文化等が観光資源として活用が期待される。

#### イ. ガストロノミー

Blue zoneの現す沖縄・奄美の食は、生命循環とそれに向き合う人のあり方、願いや愛情を現すもの。伝統的理念と調理法、地域固有の薬効成分等の高い素材を、国内外の世界的センスを持つシェフや素材と融合させながら、地域の食を世界的水準に昇華。

### (4) ターゲット層

欧米層のモダンラグジュアリー層を想定。



※上記はあくまで一例であり、他にも多くの世界的価値や潜在価値を有するものがある。



## 5. 高付加価値旅行者の誘致に向けた課題と取組の方向性

### (1) 基本課題・施策

#### ・ 安全・安心・快適で SDGs に適応した観光地マネジメント

想定外の危機に備えた危機管理体制を強化し、安全・安心で快適な観光の実現に取り組む。また、特定の地域や時期、時間帯に多くの旅行者が訪れることで生じる自然環境や住民生活への影響等の諸問題である、いわゆるオーバーツーリズムに対しては、各地域で自然環境の保全、地域の文化・生活環境の尊重を要件とする観光地マネジメントに取り組み、旅行者・観光客と地域・住民が価値を共有するサステナブル（持続可能）／レスポンシブル（責任ある）／ユニバーサル（誰もが楽しめる）ツーリズムの推進に取り組む。さらに、安定的な財源の確保と新たな推進体制の構築にも取り組む。

#### ・ 多彩かつ質の高い観光に向けた DX の推進

世界水準の観光地の形成に向けては観光の質の向上を図る必要があるため、適切な消費者調査を通して消費額向上が見込めるターゲット市場における消費者の理解を深め、マーケティング戦略を立案し、多様なニーズへの対応、高付加価値な観光、観光消費額の向上、良質な観光客のプロモーション施策など一気通貫での沖縄ブランドの強化を進める。

また、ICT等の活用や観光DXの促進を図り、島しょ県としての特性・優位性も活かしながら産業としての競争力を強化し、根拠に基づいた効率的なプロモーションを図る。

#### ・ 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

沖縄が持つ独自の自然環境、文化・伝統・芸能、空手・スポーツ、健康・長寿等のソフトパワーを生かした付加価値の高いツーリズムを展開し、経済効果の検証を図りながら必要に応じて民間活力も活用しつつ体験価値の向上を図り、観光需要の平準化につなげる。また、MICEの振興により沖縄観光にビジネスツーリズムという新機軸を打ち出し、各種施策を戦略的に推進する。

#### ・ 基盤となる旅行環境の整備

観光客が安全・安心・快適に旅行を行うための基盤となる、航空ネットワーク、航路ネットワークの拡充、観光の二次交通結節点の整備を引き続き行うとともに、客層客室タイプ別の宿泊施設調査や情報インフラの整備拡充、観光地としての景観形成等を図る。

#### ・ 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

国際的に取組が求められている脱炭素社会の実現に向けて取り組むことは非常に意義深いことであり、国内外の市場に向けて沖縄観光の姿勢を示すため、食品リサイクルの推進（ホテル・飲食店等における食品ロス）、観光サービス提供時における代替プラスチック製品の積極的な利用や自然素材への転換などを通じて、廃棄物の削減及び脱プラスチック社会の実現に向けての取組を促進していく。また、運輸部門、宿泊施設、観光施設の脱炭素化に向けての取組も促進していく。

#### ・ 人材育成と人材確保の推進

コロナ禍の影響により経済活動が縮小された観光産業への人手不足の解消に向け、観光従事者の対応力の向上や高度経営人材の育成、大学等と連携した人材育成カリキュラムの構築やインターンシップ制度の充実などを行い、新たな人材の確保、後継者の育成を図る。また、観光産業従事者の社会的な地位向上に向けて、観光産業の雇用環境の改善と安定的に質の高い雇用の確保が可能となる体制の構築を図る。

### (1) 基本課題・施策

#### ・ 奄美群島の地域ブランディングの強化

【1-1 奄美群島の観光施策の方向性の設定】 【1-2 観光資源の利活用の適正化】 【1-3 観光関連産業と他産業との連携】 【1-4 観光プログラムの開発】 【1-5 情報発信】  
奄美群島において観光を推進するにあたり、変化する社会状況を的確に捉え、島民の暮らしと観光のバランスに配慮しながら持続可能な観光地域づくりに取組みます。奄美群島の各島の個性を尊重して奄美群島全体で奄美らしさを考え続けることで、「奄美群島」としての地域ブランディングを確立し、観光プログラムの造成や情報発信など総合的に取組みます。

#### ・ 奄美の地域資源や観光拠点の魅力の向上

【2-1 地域資源の保全・活用】 【2-2 観光拠点や関連施設の整備】 【2-3 奄美らしい景観の保全・活用】  
奄美群島における観光資源には自然環境だけでなく、地域の歴史文化や集落の景観、人々の生活文化など多様なもので構成されます。また、空港やフェリーターミナルなどの交通拠点施設や主要な観光関連施設、宿泊施設等も、旅行者にとって滞在中の大切な場所となります。これらの観光資源や施設について、魅力や利便性を高めるための取組を進めます。

#### ・ 既存組織の体制整備や魅力的な人材の発掘・育成

【3-1 観光推進団体の体制の強化や観光関係者との連携】 【3-2 観光に携わる人材の育成や連携の強化】 【3-3 観光関連産業の質の向上】  
奄美群島全体で観光施策を着実に進めるため、（一社）奄美群島観光物産協会を中心とした各島の観光推進団体の体制や人材を充実します。さらに、観光関連業の収益向上や従事者の雇用環境の改善を進め産業として発展させるとともに、島民全員で観光に関心を持てるような意識づくりに取組みます。

#### ・ 観光の現状分析のための情報収集と成果の活用

既存の調査を活用・発展しながら奄美群島内で統一されたデータ収集やアンケート調査を実施し、よりの確に奄美群島における観光の動向を把握し、観光施策の検討に活用します。得られたデータについては、各自治体や観光推進団体だけでなく、宿泊事業者等の民間の観光関連事業者が自らの事業展開で活用できるようにフィードバックし、使いやすいシステムの構築や分析のためサポートに取組みます。

#### ・ 奄美群島内外の移動の利便性向上

陸路で移動することができない奄美群島への交通手段を維持するため、一次交通である航空路線やフェリー航路への観光利用を促進して利用者を確保します。島内においては、交通事業者と協力しながら旅行者の二次交通や三次交通の移動手段を確保し、島民にとって生活するうえで必要になる路線バス等の公共交通の利便性を高めます。

#### ・ 隣接地域との連携の強化

奄美群島は、観光地として国内有数の人気を誇る沖縄県や屋久島に隣接し、沖縄県北部及び西表島と一体的に世界自然遺産に登録されています。魅力的な地域に囲まれた奄美群島の立地を生かして、各地域の自然環境や歴史的背景と紐づけながら、隣接地域と連携しながら観光施策に取り組むことでより付加価値の高い観光へと展開します。

### ① ヤド・マチ

#### ア. 宿泊施設

宿泊施設については、今後の入域観光客数の見込みと宿泊施設の需給バランスを踏まえ、適正な宿泊単価を確保しつつ、地域ごとの分散化やエリア単位での整備等、県全体及び客層客室タイプ別の宿泊供給量の適正化に努めるとともに、利便性や品質向上を推進する。また、サービス業における予約・注文のオンライン化やキャッシュレス決済の導入など、宿泊施設における DX を推進する。

#### イ. 拠点整備

国内外からの観光客の増大や観光の高付加価値化等による滞在日数の延長、観光消費額の向上につなげるため、民間観光関連施設の整備を促進するとともに、MICE、スポーツ、空手、ショッピングなど、各コンテンツの拠点整備を行い、観光案内所の機能強化を図る。また、観光拠点を核とする都市型観光の充実と長期滞在型のツーリズムを推進する。

- ・文化芸術施設の活用、沖縄型特定免税店制度の活用、観光案内所の機能強化、観光地形成促進地域制度の活用など

#### ウ. 沖縄らしい風景づくり

今後返還が予定される大規模な駐留軍用地跡地利用を県全体の振興発展につなげるとともに、無秩序な開発が広がることで、本来守るべき自然資源や歴史資源が失われることがないよう、自然環境の保全や伝統・文化の継承と経済振興の均衡のとれた県土づくりに取り組む。また、本県のソフトパワーの源泉である自然環境や歴史・伝統文化と調和する沖縄らしい風景づくりを進めるとともに、首里城跡をはじめとする「琉球王国のグスク及び関連遺産群」など世界遺産の価値をさらに高める取組を推進する。

- ・風格ある景観資源の保全・継承、琉球王国のグスク及び関連遺跡群の活用など

#### エ. 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

貴重な自然・文化資源の下に成り立つ本県の観光にとって、近年、国際的に取組が求められている脱炭素社会の実現に向けて取り組むことは非常に意義深いことであり、国内外の市場に向けて沖縄観光の姿勢を示すため、食品リサイクルの推進（ホテル・飲食店等における食品ロス）、使い捨て容器包装等の削減、観光サービス提供時における県産リサイクル製品、代替プラスチック製品の積極的な利用や自然素材への転換などを通じて、廃棄物の削減及び脱プラスチック社会の実現に向けての取組を促進していく。また、運輸部門、宿泊施設、観光施設の脱炭素化に向けての取組も促進していく。



### ① ヤド・マチ

#### ア. 宿泊施設

世界自然遺産登録は当初、2018(H30)年を目指していたため、奄美大島では2018年以前より民泊（簡易宿所）の保健所への届け出件数が急増し、奄美大島の宿泊施設軒数は顕著な増加傾向が見られる。宿泊収容人員は宿泊施設軒数の増加傾向に比べ、増加傾向は緩やかになっている。奄美大島以外の各島では、沖永良部島と与論島は、宿泊施設の軒数、収容人数とも減少しており、観光客の受入れは奄美大島が突出している。

奄美大島においては一部で新築等が見られるが、一般的には老朽化が進んでいる。今後獲得していききたいインバウンド高付加価値顧客への対応に関しては、設備やサービス水準・人材などに取組余地がある。

また、滞在型観光等へのニーズにも対応した整備・改修のほか、人材の育成・確保などを図る必要がある。さらに景観及び自然環境に配慮しながら、新たな観光ニーズに対応した質の高い施設整備を促進する。外国人観光客に対し、奄美の豊かな人情を生かしたおもてなしの出来る人材の育成・確保などを促進する。

#### イ. 拠点整備

地域と連携した観光案内所や観光交流拠点を整備・運営する。自然環境を保全しながら奄美群島国立公園を観光拠点として活用する。

#### ウ. 奄美らしい風景づくり

観光地としての需要増加に伴う無秩序な開発等により、貴重な観光資源である奄美らしい景観の喪失を防ぐため、島民の意識向上を図る。景観条例や景観計画を策定し島らしい景観の誘導を行う。各島で統一したデザインの案内表示やサインの整備を推進する等

#### エ. 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

DMO、カーボンニュートラル、JSTS-Dの推進等の持続可能な観光地域づくりを推進する。レスポンシブル・ツーリズム（責任ある観光）への理解を促進する。奄美群島エコツーリズムを推進する。

### ② ヒト

人手不足の解消に向け、子どもや学生に対する観光産業の魅力の伝達や高度な人材育成、観光地経営の担い手の育成・確保を図る。また、人材定着に向けては、観光産業従事者の社会的地位の向上に加え、観光産業の雇用環境の改善や、雇用体制の構築を図る。

#### ア. 質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保

奄美大島、徳之島※、やんばる、本島南部、宮古、八重山等における観光従事者の対応力の向上及び地域の歴史文化・資源の理解や高度経営人材の育成のための研修の充実、広報・周知のほか、大学等と連携した人材育成カリキュラムの構築、外国人労働者の採用・雇用改善による観光地経営と現場を担う人材の育成・確保を図る。また、観光産業の重要性を県民や県内の子供たちに解りやすく見える化し、沖縄観光の魅力や観光業での働きがいを感じてもらい、将来、質の高い観光人材として沖縄観光に寄与してもらうような流れをつくるための取組を実施する。

##### ・ 多彩で質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保

###### ① 地域に根差したビジネス ≡ Regional（地域）DMC人材育成

地域に根差したRegional（地域）DMCを担う人材育成と確保を図る。

###### ② スルーガイド人材育成

欧米豪のモダンラグジュアリー層向けに、ストーリーを主軸に地域の価値高める旅行商品の造成・催行を実現するスルーガイド人材育成プログラムを開発・実施する（※ツアーのみならずホテル、関連施設等でのインバウンド人材育成も考慮して設計）。

##### ・ 官民一体となった就職説明会への出展と観光業界のインターンシップの推進

##### ・ 県民、学生目線による沖縄・奄美観光の魅力向上

##### ・ 観光業で働くことへの魅力・満足度向上

###### ③ 域内、他地域視察・相互交流

沖縄本島、沖縄離島、奄美群島（屋久島等も含む）間での人材育成プログラム、海外展示会出展等の合同実施。域外では、北海道等の他エリアとの相互視察・交流プログラムを実施する。

###### ④ 将来に向けた教育との連携、U/Iターン促進地域の小中高生向け地域愛の醸成、域外大学生等の招聘

地域の小中高生に地域の価値を、体験を通じて理解してもらい、地域愛醸成とU/Iターンを促す。

また、東京や都市圏の域外の大学生等に講義の一環として、奄美へ現地研修等へ招聘し、関係人口を増やす。

## 5. 高付加価値旅行者の誘致に向けた課題と取組の方向性

### イ. 観光業界における雇用環境の改善

沖縄の観光産業従事者の社会的な地位や QOL（Quality of Life：仕事のやりがい等）向上に向けて、観光産業で働くことを通じて、自身のライフプランや働き方も含め、将来なりたい姿や目標を描くキャリアデザインの普及啓発に取り組むほか、国内外の先進的な取組を行う地域や教育機関への派遣・研修も含めた魅力的な研修制度の明示や、従業員自らのキャリア形成を応援する環境づくり、法律に準じた観光産業の雇用環境（障害者雇用を含む）の改善と安定的に質の高い雇用の確保が可能となる体制の構築を促進する。

また、正規雇用の促進や観光事業者に対しての経営支援や参入支援など、産業規模の維持・拡大に努める。さらに、女性もキャリアデザインを描きやすく、かつ誰もが活躍できる業界づくりを促進する。

#### ・ キャリアデザインを導入した観光人材育成、雇用の安定化、正規雇用の促進、女性の働きやすい職場環境の推進など

##### ⑤前頁の①～④の取組を通じた観光業の魅力向上、広義の観光関連従事者の雇用環境の改善

本マスタープランに掲げているように、従来の観光関係者のみならず、一次・伝統産業従事者、産官学が広く連携し、エリア全体での高付加価値化を実現することで、個々では成し遂げられない雇用環境と所得の向上を目指す。



### ③ コネ

持続可能な観光地として、世界から選ばれる強い沖縄ブランドを構築するには、観光客のデータ分析だけではなく、ターゲットとなる市場の深い消費者理解が不可欠である。

#### ア. 沖縄・奄美エリアでの統合マーケティングの実現

新たに適切な消費者調査の実施を通して将来像の達成に必要なターゲットと沖縄・奄美が抱える消費者のブランドの課題、強化の機会を見定め、消費者視点に基づいたブランド戦略を立案した上で、ブランド戦術としての Be.Okinawa や奄美エリア統合コンセプトの効果的な運用を含む、誘客プロモーション施策や観光消費拡大、滞在満足度向上、受入体制整備など各分野の具体的施策につなげる。

#### イ. 沖縄・奄美エリア連携での観光統計の高度化、即時化を見据えたデータ統合収集・分析・

##### 活用手法の検討

また、観光客の動態の変化や生の声をリアルタイムに近い形で施策及び現場に活かすため、主要エリア別流入量把握等も見据えた、即効性・実効性の高い観光統計の集計・分析を行い、トランジット客や沖縄県・奄美エリア（鹿児島県）内観光客も含めたデータに基づいた季節による需要の偏在や地域による需要の格差を解決するための方策を検討する。

#### ウ. 沖縄・奄美エリアの一体的そして個々の魅力を最大化するプロモーション実施

海外の高付加価値顧客層・DMCと商談のできるRegional（地域）DMCや受入れ時のランドオペレーターが存在が顕在化されておらず、機会損失に繋がっていることから、高付加価値な滞在先としての沖縄の認知度向上及び高付加価値インバウンドの誘客チャンネルの構築を目指すプロモーションを実施する。

### エ. 地域に根差したビジネス≒Regional（地域）DMC育成

「ヒト」パートで育成する人材をコアとして、地域に根差したRegional（地域）DMC育成を支援する。沖縄では内閣府沖縄総合事務局・沖縄県・OCVB、鹿児島では鹿児島県が育成している高付加価値人材と連携し、海外の高付加価値顧客層・DMCと商談のできるRegional（地域）DMCや受入れ時のランドオペレーターの育成を通じて、実践的な販売を実現する連携・運用体制を構築する。得られたノウハウ・コネクション・連携機運等を単年度・一過性の取組に終わらせず、両地域でアセットとして積み上げていく機能としても期待。

### オ. 海外展示会等への合同出展

沖縄・奄美エリア総体としての魅力を伝え、想定顧客誘致につなげる海外展示会（ATWS、ITB Asia、WTM、FITUR等）へ合同で出展する。欧米豪の富裕層・モダンラグジュアリー層を顧客に持つバイヤーが参加する海外展示会・イベント等に、地域に根差したDMCやランドオペレーター、スルーガイド等が主体となり参加し、JNTOとも事前連携の上で沖縄・奄美エリアの広域連携で商談を行う。また昨年度連携実績のある沖縄・奄美と連携実績のある北海道とも連携を行う。

### カ. 沖縄・奄美統合連携FAMツアー実施

欧米豪の富裕層・モダンラグジュアリー層を多く顧客に持つ旅行会社への販売促進のためATWS2023に参加した海外ツアーオペレーターを招聘したFAMを実施する。既に北海道や日本の他のAT取組地域を理解している層であるため、これらの地域とも比較した上で沖縄・奄美エリアの価値を評価できるため、効果の高いFAMとなると想定している。

今後、沖縄県、鹿児島県が実施している富裕層プロモーション事業などの関連事業と連携を図りながら相乗効果を図る。

### キ. 地域・全国紙、地上波、オンラインメディア、JNTO等と連携した取組全体の内外への周知活動

高付加価値かつエコ・サステイナブル・SDGsな観点を重視した観光を通じた地域活性化の取組とその意義・重要性は、広く認知されつつあるが、まだ十分とは言えない。事業設計段階から関連メディアを巻き込み、シリーズ化等含め支援をPR支援を打診し、取組全体の効果を高めていく。

### ク. 東京・北海道・九州等域外での取組周知セミナー等開催によるネットワーク強化

高付加価値旅行者誘致に取り組む関連事業者、地域行政、関連省庁・政府機関、教育機関等を招き、取組の意義を周知し、さらなるネットワークを構築するセミナー等の域外での開催。

### ④ アシ

沖縄への入域観光客については、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた交通手段、空港・港湾、陸上交通等の社会基盤のスケールや機能など供給面の対応が必要である。また、量から質への転換、各種の将来動向等を見据え、官民が連携して空港、港湾、陸上交通等の社会基盤の充実、宿泊施設や拠点整備などの受入環境整備の強化を図ることが重要である。

このため、観光客が安全・安心・快適に旅行を行うための基盤となる、航空ネットワーク、航路ネットワークの拡充、交通結節点の整備を引き続き行っていくとともに、沖縄観光の分散化・平準化に必要な宿泊施設の把握や情報インフラの整備拡充、景観形成にも取り組む。

#### ア. 空港

新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた中長期的な航空需要や「新しい生活様式／ニューノーマル」による人の流れ等を勘案し、空港エリアの拡張や展開用地の確保、新ターミナルの整備など、国や関係機関と連携し、那覇空港の将来のあり方について調査・研究に取り組む。また、那覇空港及び離島空港における海外航空路線及びトランジットの拡充を図るため、航空会社に路線開設や増便、チャーター便運航から定期便化を目指すセールス活動等を行うとともに、連携キャンペーンの展開や旅行商品の造成等を支援し、市場の状況に合わせた段階的な路線誘致活動を実施する。

さらに、離島航空路の確保と維持に向け、計画的な空港施設の更新整備と機能向上に取り組む。また、新石垣空港、下地島空港において、各ターミナルビル社による国際線旅客受入体制整備に係る取組や、首都圏または政令指定都市等とつながる地方管理空港の路線開設に向けた取組を支援する。

加えて、航空会社の負担軽減を図り、運賃の低減化を促進するため、旅客便の航空機燃料税、着陸料、航行援助施設利用料の減免措置を活用した、積極的な路線誘致活動等により新規航空会社の参入を促進するなど航空ネットワークの拡充を図る。



### イ. 港湾

那覇港においては、フライ・アンド・クルーズ等の付加価値の高いクルーズ誘致を行うため、クルーズバースの整備に取り組むとともに、浦添ふ頭地区においては、富裕層の長期滞在型観光の拠点となる世界から選ばれる持続可能な観光地の形成に向けて、自然環境を活かし、マリーナ・ビーチ等から構成する観光・ビジネスの拠点の形成に取り組む。中城湾港においては、アフターコロナを見据えたクルーズ船寄港地の形成やスーパーヨットの受入環境整備、大型 MICE 施設等と調和したマリーナ整備等に取り組むとともに、東部海浜開発事業の推進等により、多彩で高付加価値の国際観光・交流拠点の形成やブランド価値を生む親水空間の形成を図る。

各圏域の拠点港湾等においては、大型クルーズ船が寄港可能な岸壁や旅客ターミナル施設等を整備し、クルーズ船の寄港・就航を促進するための港湾機能の強化に取り組むとともに、観光の高付加価値化を図るため、スーパーヨット等の受入環境整備を推進する。

### ウ. 二次交通

空港・港湾と観光拠点エリアの移動が円滑に行えることにより、観光客の周遊性の拡大・向上による観光消費額の向上が期待できるため、空港・港湾から観光地までの交通手段となるモノレール、バス、タクシー、レンタカー、船舶などの二次交通の機能強化を図りつつ、主要観光拠点を観光の二次交通結節点として位置づけ、空港・港湾と観光拠点間を自動運行する新たなモビリティの活用を検討する。

また、シームレスな乗り継ぎサービスの提供のほか、空港・港湾と観光拠点エリアの観光二次交通結節点を結ぶ公共交通機関の利便性向上、レンタカーステーションの分散化など観光二次交通の利便性向上に向けた取組を推進する。さらに、観光客の公共交通の利便性・満足度向上を図るため、民間が取り組む出発地、沖縄県、経由地等でも活用できる共通 MaaS 周遊券の推進や公共交通情報等のオープンデータを継続的に利用できる環境を維持するとともに、公共交通におけるコンタクトレス決済の普及を促進することで、ICT を活用した新たなサービスの創出を促進する。

### ⑤ アシ

#### ア. 空港

鹿児島空港の国際線定期便の一部が再開の見通しがたっておらず、早期の復便が待たれるところ。空港施設の更新改良等を促進するとともに、CIQ機能等の体制強化や、プライベートジェット等の受入体制構築を図りながら、ファストレーンの整備等を関係機関空港管理者に働きかける。

#### イ. 港湾

奄美の港湾でも小型クルーズ船（1万トン以下）であれば接岸は可能な場合があるが、定期船等との利用調整が必要。小型のラグジュアリークルーズやワールドクルーズの誘致を行うと共に、国際クルーズネットワークの拡充等に取り組む。

またフェリー等海路でのアクセス拡充による、奄美群島周遊+沖縄との連携強化の実現。既存のフェリー会社のみを負担を強いるのではなく、各プレイヤーが連携し、採算の合う運行が実現できるよう運営方法を検討していく。

#### ウ. 二次交通

奄美群島の離島空港は、生活路線としての側面が大きく二次交通も手段が限られている。また、奄美群島におけるバスは、過疎化の進行やモータリゼーションの進展等による利用者の減少などにより、極めて厳しい経営状況に置かれている。

渋滞緩和に資する体系的な幹線道路網の整備、スマートシティやスマートアイランドの概念を踏まえたAI、IoT、ビッグデータの活用等による観光客の移動の円滑化を図る。過疎化・高齢化が急速に進む地域での自動運転実証事業参画への準備等を進める。

#### エ. その他全般

環境に配慮した交通手段の施設設備を促進する。

## 6. 次年度以降の地域経営主体について

### 沖縄

年度によって規模が変動する県及び市町村等の観光予算に依らず安定的かつ持続的に観光振興及び自然環境・文化などの地域資源・資産の保全・再生を図ることを目的とした新税等の導入について、関係団体等と意見交換を行いながら取組を進める。

また、圏域間の連携によるテーマ別施策展開を図るため、市町村、観光地域づくり法人（DMO）及び観光関連団体等と定期的に情報共有を図る。

職員の異動等によって行政ノウハウ・知見及び業界、関係機関等との連携が積み上げ式に蓄積されないことを避けるため、専任の職員・専門人材が継続して働き、政策面及び業界・関係機関との連携に貢献できる体制・仕組みづくりを検討する。

加えて、県と（一財）沖縄観光コンベンションビューローと民間の連携を強化し、観光統計調査・分析機能を推進し、マーケティングを主軸とした取り組みを強化する。

観光振興を目的とする新税等の導入 / 持続可能な観光振興施策の展開 / 新たな分析・政策立案体制等の設置検討

### 奄美

奄美群島振興開発計画改定の方向性、鹿児島及び沖縄での官民における協議の進捗等を踏まえ、これらに沿って将来構想を具体化、推進体制を検討していく。

沖縄及び奄美の官民連携協議会において、相互連携しながら、今後、関連基本計画の更なる加速に必要となる民間の主導的役割の発揮、地域経営戦略、推進すべき具体の基幹事業を協議し、事業推進や体制強化のあり方などの検討、必要な政策提案、事業化等を進める。

また「沖縄と奄美群島との交流の拡大にかかる連携協定」に基づき、

①往來の円滑化 ②観光振興 ③農林水産物などの輸送の円滑化 ④自然環境の保全と再生 ⑤青少年の交流 などに協力して取り組む。



2024年度（R6年度）

2025～26年度（R7～8年度）

2027年度（R9年度）以降

## 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画及び第6次観光振興基本計画（R4～R13）

第6次沖縄県観光振興基本計画ロードマップ（前期：R4～R6）

第6次観光振興基本計画ロードマップ（中期：R7～9）

基本施策

ウリ・コネ

### ① 安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント

- ・危機管理体制見直し・強化
- ・サステナブルツーリズムの推進
- ・ユニバーサルツーリズムの推進
- ・県民生活・社会と調和のとれた観光振興の実現
- ・レスポンシブルツーリズムの推進
- ・安定的な財源の確保と推進体制の構築

### ② 多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進

- ・ターゲットマーケティングと効率的なプロモーションの実施
- ・デジタル化、観光DX、ICTの活用による利便性の向上
- ・外国人観光客への対応強化（多様性への対応、相談体制、多言語対応など）
- ・観光収入の確保と経済効果の発揮

### ③ 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

- ・自然を活用したツーリズムの推進
- ・文化・伝統・芸能を活用したツーリズムの推進
- ・地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上
- ・マリンタウンMICEエリアの形成を核とした戦略的なMICEの振興
- ・空手、スポーツ及び沖縄の温暖な気候を活用したツーリズム、ウェルネスツーリズムの推進
- ・質の高いクルーズ観光の推進 など

ヤド・マチ

### ④ 基盤となる旅行環境の整備

- ・空港、港湾、二次交通、宿泊施設、拠点整備、沖縄らしい風景づくりの推進

ヒト

### ⑤ 人材育成と人材確保の推進

- ・質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保、雇用環境の改善

アシ

### ⑥ 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

- ・食品ロス削減、脱プラスチック、カーボンオフセット、カーボンニュートラルの推進

ロードマップの役割と  
その達成イメージ

全施策のKPIの達成など施策の評価・検証、実績の公表、県民意識・社会経済情勢・県民ニーズの変化把握・反映など、PDCAサイクルを実施しながら、ロードマップを改定。

目指す将来像に向けた消費単価の向上、滞在日数の延伸、食・交通・宿泊の満足度の向上、沖縄でしか味わえない歴史文化の体験、付加価値の高い観光商品造成や観光客の受け入れ、人材の育成・確保などに対応するための更なる取組と関係者の責任・役割を示し、県民をはじめとした多様な主体の参画と協働を促す。

更なる加速のための  
追加施策

本件協議会や関連する協議会において、沖縄振興の成果と残課題を踏まえた関連基本計画の更なる加速に必要な民間の主導的役割の発揮、地域経営戦略、推進すべき具体の基幹事業を協議し、事業推進や体制強化のあり方などの検討、必要な政策提案（「第6次沖縄県観光振興基本計画」ロードマップ（中期）への反映など含む）、基幹事業の事業化等を進める。

- ・域内・域外との好循環創出による移出・移入インバランスの是正、高付加価値型経済・社会への転換のため必要となる戦略や方策の分析
- ・共有された戦略をけん引する基幹事業の創造とその基盤となる環境整備（インフラや制度環境、推進のための体制、人材成長の場の創出と人材確保など）
- ・沖縄に住まう価値を高めるためのライフスタイル、将来都市文化の創造 など

上記取組を更に加速するため、ロードマップに基づく各主体のアクション、事業化を不断に検討、推進。

# 7. ロードマップ【奄美】

